

洛友会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内会
洛

暑中お見舞申し上げます

会員各位の健勝と活躍をお祈り申し上げます

洛友会会長 松田長三郎

□ 洛友会創立30周年

本年は洛友会創立30周年に當

る。電気工学科が創立されたのは、明治31年であるが、その前年

30年に、土木工学科・機械工学科の2学科が、理工科大学として發

足したのが、そもそも、京都帝国

大学の創立であった。電気工学科を加えて、今まで、卒業生を

出すこと五、四二七名、これに電

気工学講習所の卒業生一、二七八

名を加えて総数六、七〇五名を數え、我国の電気工学科の學術技術の發展に、大きな貢献をなして來た

と、聊か自負し得ることは、私共の大きな喜びであり誇りである。

今や電気は、あらゆる方面において社会を動かしている不可欠の根

本的エネルギーであり、その重要

とのないよう、注意することが大切である。只、自分の專攻している分野で、誰かに、先きを越されることは、研究者として、大きな悩みであろう。尚、研究の成果は、夫々の発表機関で公表されが、大分、遅れはするが、研究

論文の抄報が、Science Abstracto (Section A, Physics Abstracts 及び Section B, Electrical Engineering Abstracts) に載せられてゐる。又化学方面では、某大学 Chemical Abstracts が発行されてゐる。

これらアブストラクトには、多大の頭脳と労力と、費用がかかる

性は、今後、益々大きくなつて行くであろうことは、疑いを容れない。私共は、この重要な責務の一端に寄与出来ることは、大変有り難いことであると思う。世の中は、或は世界は、今や日進月歩の激しいテンポで進みつゝある学

界・技術界において、遅れを取らぬよう、更に進んで、その進歩の一翼を荷う心構えで、努力したい

ものである。

□ 研究発表

現在、世界各国では、全く氣の遠くなる程、各方面で、各種各様の研究論文が、多数に發表され、

大學や研究所の圖書室には、多数の外国雑誌が購入されてゐる

うと思って、米国の電気学会雑誌を、創刊号から集めたり、まだ

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

Maxwell の Treatise on Electricity and Magnetism (2巻) や Oliver

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

停年官後、家居して勉強しよ

うと思って、米国の電気学会雑誌を、創刊号から集めたり、まだ

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

Maxwell の Treatise on Electricity and Magnetism (2巻) や Oliver

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

集めたして、いたが、これ等は、大変重いので、家が傾く嫌いがある。岡山大学に、電気工学科が創設されるに当り、姫井農治

教授（昭和19年、電気卒業）を経て、寄贈するつもりであつたが、

ドン質問されるので、みんなビックリしていた。そんな訳で、講義の前には、随分、他の参考書を漁って予習していくものである。

私は、電気に関する教科書や書物は、汗牛充棟の盛況である

が、私共の学生時代は、余り無かった。理学部の水野敏之丞先生の

理論電気学・電子論・原子論・相対原論などが、丸善から出版され

ていたし、東京大学の鳳秀太郎先生の、交流理論初め教科書が出ていたし、それより前、スタンメント

の交流理論や過渡現象論（英書）などがよく読まれたし、電機や変圧器などについても、独逸書のアーノルドに依ることが多かつた。

そんな訳で、英語や独逸語の読書力は、現在の学生諸君に比して、

□ 本棚の書物

私の本棚には、今も泡 Clerk

Maxwell の Treatise on Electricity and Magnetism (2巻) や Oliver

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

停年官後、家居して勉強しよ

うと思って、米国の電気学会雑誌を、創刊号から集めたり、まだ

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

Maxwell の Treatise on Electricity and Magnetism (2巻) や Oliver

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

Maxwell の Treatise on Electricity and Magnetism (2巻) や Oliver

Heaviside の Electromagnetic Theory (3巻) などがある。また、

遙かに上達していたかと思う。また電気磁氣学は、大学入学当初は小倉公平先生担当で最も重要で、殆んど毎日のようにあって、ドン質問されるので、みんなビックリしていた。そんな訳で、講義の前には、随分、他の参考書を漁って予習していくものである。

私は、学生時代、予習して行ったのは「電気磁氣学」だけである。

Geens の Treatise on Electricity and Magnetism のような英書を勉強し、殊に、各章末についている演習問題は、随分、むつかしいものであつたが、その解けた時は嬉しさは、鬼の首でも取つたよ

うな、何とも言えぬ揚々たる意氣で、更に一層、向学心を盛り立て

いたものであるが、今でも懐かしい思い出である。今は、何もかも便利になつて、やる気さえあれば、

幾らでも伸びて行く有り難い時期ではある。

（終）

和田昌博君を偲ぶ

昭和7年卒 鈴木茂

和田昌博君の計報に接した時は

全く驚天した。

最後にお目に掛ったのは、3月

14日

永田良孝君と共に、関電病院

の病室へ參上した時である。昨年

12月初め入院し手術を受けられたが、夫人の手厚い看護により経過良好で18日には退院されると聞きました。兩人共安堵して引き上げた次第である。

入院中に減量してスマートになられ元気を恢復した様に見受けられ、一切の公職を辞し晩年の自適生活を楽しみに期待して居られたと聞いた。君と私は、呑友達であったので、例え退院しても、酒は禁物やると笑話を仕掛けたが、いやそれ構わんのや、医者も許してくれたのやと嬉し相な返事が返って来たが、その時の面影が今も尚瞼の奥に残る。

4月7日の同級生の昼食会の席上でも、段々と元気になられたと噂を仕合い君の健康恢復を信じて祝福したが、その余韻が残る時の計報で愕然とした。君は昭和7年学業を終え大阪市電に就職され、その後関西電力となり同社副社長、関西科学技術センター理事長、関西電気保安協会理事長等の要職につかれた事は御存知の通りである。

その間私は公私共に君のお世話をした。ある大新聞が著名人士の交友録をのせるが、君の録の一端に私も列して誠に光榮であり、且恐縮もしたが、お蔭で我が家は親父株が暴騰した。我々昭和7年卒業生で昭六会を結成し、関西では、2ヶ月毎に昼食会を、年末には忘年会を、又秋には全国から集まり懇親旅行会をする。

昼食会では、度々君の海外出張の話を聞き、時には8%映画を見せて貰うのが楽しみであった。夜の会合で酒豪No.1は君であった。鉄鋼関係の会社に勤務したお蔭で酒量に自信がある私も到底及ばなかった。特に軽妙洒脱な座持と隠し芸には歎が立たなかつた。第二次会には度々北新地へ案内して貰つたが、美女達が君の周りに群がるので少々嫉妬した。ゴルフも時々やつた。この方の腕前は両方共Elast Round Ageshotterと言ふ所だが、私の方に少々歩があつたと自惚れているが許して貰えるだろう。

秋の懇親旅行会は夫婦同伴で毎年30名前後は集まる。関西以西で行われる時順次当番幹事になるが、事実上は世話好きの和田君が影の幹事長であり、又それでなくては事が運ばなかつた。昨秋は阿蘇、別府へ行つたが、御夫妻も元気に参加された。その際の状景を一つとして、名簿発行事務の電算化をはかることとなり、会員各位のご協力をえて、目下そのための作業を進めています。この作業は、電気系教室の中に設けられた委員会(委員長、田丸教授)によつて推進されています。以下現状についてご報告申し上げます。

今秋は能登方面へ行く予定で、委員会は、まず現在の名簿の形式を変更しないで発行するための計算機プログラムを検討した後、日本財團の書類で電気工学第二学科教授近藤文治より名簿発行事務の電算化に当つて、名簿の形式につづくような変更が生じます。ご諒承賜わりたいと存じます。

さて名簿発行事務の電算化に当つて、名簿の形式につづくような変更が生じます。ご諒承賜わりたいと存じます。

(1) 勤務先別名簿は個人名簿から自動的に作られます。従来は、勤務先別名簿は会社の卒業生代表者にお願いして別に調査して作成しておりました。しかし、代表者に余りにもお手数をかけ過ぎますので取り止めます。したがつて今後、勤務先別名簿は個人からの通知によってのみ変更されることになります。充分ご注意下さい。

ところが、今年は洛友会創立三十周年に当たり、その記念事業の一つとして、名簿発行事務の電算化をはかることとなり、会員各位のご協力をえて、目下そのための作業を進めています。この作業は、電気系教室の中に設けられた委員会(委員長、田丸教授)によつて推進されています。以下現状についてご報告申し上げます。

(2) 従来居所不明者は、各卒業年度の末尾に一括掲載していましたが、まさかこんなに早く病没さつたが、期日直前の12月初旬に入院の止むなきに至り、一同心痛しました。住所変更の際はお手数ですが、その都度直ちにお報らせ下さい。お頼み申します。

(3) 漢字使用国以外の国からの留学生の名は、從来片カナで表示していましたが、今後は英語表示に改めます。漢字使

を掛ける羽目になった。お蔭でプランも固まり後任幹事に尾形君が直り、君にも安心して貰つた矢先

うものであらう。

和田昌博君、君は天土に吾々は

に突如他界され残念至極である。

今秋の懇親旅行には、残念乍ら

地上にと住む場所は別れたが、今

後も我々を暖く見守つて下さい。

人に御参加をお願いして一同で旧交を温め合うのが君の御遺志に副

所、昭和十三年卒、竹村清氏の奉仕的なご協力をえています。新しい名簿を例年どおり十二月上旬に届けすべく、関係者一同頑張っています。

会員名簿発行事務の田昌博君

電算機化進む

電気工学第二学科教授 近藤文治

事務引受け会社の選定を行い、京

都電子計算機株式会社に依頼する

で、作業量は事務局の処理能力の

限界に近づきつあり、何時かは

これまで手作業で行われていまし

た。しかしその事務は非常に繁雑

状態でした。

ところが、今年は洛友会創立三

十周年に当たり、その記念事業の

一つとして、名簿発行事務の電算

化をはかることとなり、会員各

委員会(委員長、田丸教授)によ

つて推進されています。以下現状

についてご報告申し上げます。

委員会は、まず現在の名簿の形

式を変更しないで発行するための

計算機プログラムを検討した後、

会社へ、原簿として引渡すこと

になつてゐます。

なおこの作業に當つては、講習

所、昭和十三年卒、竹村清氏の奉

仕的なご協力をえています。新し

い名簿を例年どおり十二月上旬に

届けすべく、関係者一同頑張

っています。

部落の端でバスを降り、緩い坂道を下ると船着場があり、数隻の遊覧船が待機する。坂道の両側には部落の人々が露天市を広げ、自然石の水晶片、陵墓、出土品までいの汚れた陶器、果物等を売るが、全く貧しいものであった。

船は吃水の浅いエンジン船で外輪が帆につき、船室の上に展望甲板であった。船室では水墨風景画帳を売る。本流へ出ると川幅は七〇～八〇メ位もあり、水量も可成豊かで流れは緩く、水は清く浅い河底の石が見える。船は棒抗の航路標識を便りに河を降つて行く、日

し、或はカメラのシャッターを押し絶景に見惚れた。河岸の所々には平地があり耕作が営まれ、小部落が点在する。河辺の堤では水牛が草を喰み、河岸には河舟や筏がつながれていた。両岸をつなぐ橋の類は何処にも見えない。又陸上交通路なく、河舟や筏が住民の唯一つの交通機関らしい。

られた。　部落の端でバスを降り緩い坂道を降ると船着場があり数隻の遊覧船が待機する。坂道の両側には部落の人々が露天市を広げ、自然石の水晶片、陵墓、出土品まがいの汚れた陶器、果物等を売るが、全く

卷之三

This is a detailed map of the Guilin area, showing the intricate network of karst mountains and the Li River system. Key features include:

- Mountains:** Lijiang Mountain, Xiangshan, Yushan, Shuangqiao Mountain, Guanyin Mountain, and many smaller peaks labeled with Chinese characters.
- Water Bodies:** The Li River, Qingshui Lake, and several smaller streams.
- Scenic Spots:** Elephant Trunk Hill, Three Gorges of the Li River, Flower Bridge, Animal Park, and the Moon牙 Mountain (containing Dragon Backbone and Sea of Clouds).
- Human-made Structures:** Lijiang Hotel, Yangshuo Hotel, and the Workers' Cultural Palace.
- Transportation:** A railway line running along the river, with stations like Yangshuo Station and Lijiang Station.

The map uses shading to represent different geological or topographical features, and arrows indicate the direction of the river flow.

両岸の風景には由緒もあり、名前もついているのであろうが、三名乗組んだガイドからは一言の説明もないのに、吾々は唯好風景に見惚れているだけであった。

と河中、広まり水は淀み、対岸には広い地が発開する。村落があるり河舟がつながれ、奇峯が平野を取囲んで聳える。船は陽朔に接近したのだ。流れは右廻りを続けて山間に姿を消す。左岸の断崖の下で船は止つた。此処が陽朔の船着場であった。

土産物を求めたが左様な幸運には恵まれなかつた。

陽堤、陽朔間の船旅は凡そ近代文明から隔絶した世界で、住民達は電灯もない、中世紀そのままの生活をしているようと思われる。陽朔には近代文明の波は及んでいた。吾々は冷いコカコーラで咽喉を潤し、商店には電卓が供えられ、日本円と人民円の交換を即座にやつてのけ、日本円による買物にも不自由は感じなかつた。

多數の碑文の刻れた岩肌に沿て石段を三十m近く昇ると広場があり陽朔の市街が続く。町は人口一万人足らずの純中國風の小市街であった。尖った峯々は家並みの直背後に迫る。桂林では市街の中に奇峯が聳え、陽朔では奇峯の間に市街が在った。広場に立つて南に望むと青瓦の屋下と夕暮れ

と流れ対岸の平野には村落が拓け、これを取囲んで奇峯が聳えると云う風景であり、
易勝の景は佳木二日

陽光の景に未だ日暮れ
と形容されるに相応しい好風景で
あつた。

ツ、素足の姿で走り廻る。市街の商店は薬草、漢方薬、書画を売る。特に山水画の掛軸が多く又玉製の杯やネックレス等を売る。同

も多くの商店は大賑わいである。金行の諸氏は中國美術を解する人士沢出身の紳士が無銘の古画を一振り求められたが、後刻桂林で鑑定

させた所唐代の逸品と判り一同の羨望の的となつた。私共も若干の

昭和五十八年度
洛友会総会

桂林へ戻り一日の疲れを治した。
(次回につづく)

國会計幹事より「昭和57年度の事業及び決算」につき報告があり、予算計画の報告に関しても、同様異議なく承認された。

引き続いて、昭和58年度役員の選任に移ったが、予め幹事会で承認を得ていた次の諸氏が全員の賛同を得て承認された。

支部長 浜口俊一氏
副支部長 藤本一夫氏
総務幹事 貝野政弘氏
会計幹事 宮本一氏

これにより、以上の諸氏は昭和58年度から2ヶ年間、関西支部の御世話をお願いすることに正式に決定した。

次に恒例により新支部長浜口氏より支部長就任の挨拶があり、社会における人のつながりの重要さにつき力説され、特にやもすると疎かになりがちな縦つなぎを保つためにも洛友会の存在を強固なものにして行くべきであるとして、今後の支部会員の協力を求められた。更にそれに引続いて「教室及び洛友会本部の近況報告」が近藤常任幹事によりなされ興味深く拝聴した。

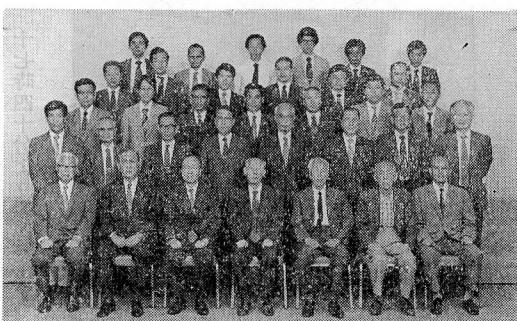
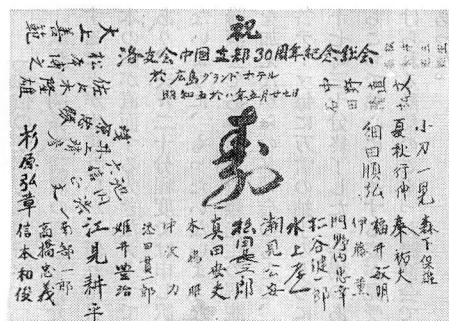
最後に、今回の支部総会が丁度洛友会発足三〇周年に当るのを記念して、特別行事としてお二方より記念講演を頂戴することにな

り、最初に松田会長の御登壇をお願いした。会長より「洛友会の思ふ出話を」をして頂いたが洛友会といふよりも寧ろ我々の知らない、ありし日の京都大学電気教室風景といった内容について、例により酒脱なお話し振りで大変興味深かく聴かせて頂いた。

次に「前支部長の佐々木さんから「先端技術の動向」につき講演して頂いたが、最近流行のバイオテクノロジーとエレクトロニクスの接点に関して極めて興味のある卓見を承り深い感銘を得た。この後、引き続いてパーティ会場に席を移し、記念パーティに入ったが和気あいあい歓談に花が咲くほほえましい雰囲気に満ち溢れ、誠に盛会裡に会をしめくふことができた。

（金原記）

五八年度
中国支部總会



第二八回洛友会

後、松田先生からは本部三十周年の記念事業のことなど最近の本部の状況を、木嶋先生には教室の近況をお聞きし、とどこおりなく総会を終わりました。
引き続いて懇親会に入りましたが、会場には第一回支部総会以来の写真集やこれも初号からの洛友会会報も展示され、それらも酒の肴のひとつとしながら、先生方を囲んで懐旧談に花を咲かせ、あるいは広島のうま酒に盃を重ねました。
最後に、美人ホステスと一緒に洛友会の歌はもとより、祇園小唄や寮歌などの大合唱となり、夜の更けるのも忘れ愉快なひとときを過しました。

六月一七日（金）高松市内の旅館「新常磐」において、第二八回洛友会四国支部総会を開催した。本部からは松田会長、近藤教授の御出席をいただき、支部からは新入会員二名を含め三三名集まつた。

総会は、松田先生のいつもながらのユーモアをまじえた挨拶、近藤先生の電気教室近況のお話しで始まり、会務報告予算案審議の後無事終了した。引き続き懇親会に入り、同先生を囲んで学生時代の

先輩の隨行記である。

〔昭四九卒 藤本記〕

六月一八日梅雨期に入つて一番心配だった天気も好い具合に晴れ、朝早く高松を出発して高知へ向つた。車窓から眺める田園風景は丁度田植えの最中である。今はほとんどが機械を使って植えていが便利になつたものだ。四国山脈を横断する頃には山の頂近くまで人家が在るのに驚いたり、大歩危、小歩危の美しい流れに見入つたりしているうちに高知に着いた。

昼食後、早速三〇番安楽寺を皮切りに四国八十八個所巡拝に出かけた。三一番竹林寺は「よさこい節」で有名な純信の居た寺だ。隣にある牧野植物園に立寄り、三二番峯寺へ向つた。相当高い石段が松田先生は足どりも軽く登られる。桂浜で太平洋の雄大な眺めに一刻休んで三三番雪蹊寺を詣でると夕暮となつた。宿が満員で松田先生・近藤先生と案内者の三名が一部屋に泊る破目になつてしまつた。遍路宿の雰囲気を味わつて下さいと言ひ訳したが、両先生とも快くお許しいただいた。

池澤君(昭五六年卒)の計らいで非常に快適な旅ができるたが、高知在住の諸先輩に御連絡しなかつたことを深く反省しております。

〔昭三三卒 杉本記〕

五八年度 九州支部総会

五六年度九州支部総会を五月二日(木)、福岡市内の「城南クラブ」において開催しました。

本部から松田先生・木嶋先生の御出席を頂き、九州各地から二三名の参加者がありました。

松田先生・木嶋先生の挨拶の後、会計報告、役員選出が承認され、総会は無事終了しました。引き続き懇親会に入り、いろんな分野で活躍しておられる会員から近況報告があり、また思い出話に花が咲き、楽しいひとときを過しました。

翌二七日(金)、松田先生・木嶋先生は、エネルギーに関する総合的な展示館としてはわが国最初にオーブン(五七年一一月)した「九州エネルギー館」(九州電力・福岡市中央区)を御訪問され、実物大の原子炉模型や実際に五〇〇Wの揚水・発電を行う小型設備など工夫をこらした展示物を御覧になりました。(加藤記)

東北支部総会報告

東北支部総会は六月二十四日(金)午後五時三十分、本部より松田会長、川端先生の御来仙を得て、仙台市東北電気会館で行なわれました。当支部では昨年十二月

二村支部長が御逝去され、また下副支部長が新潟市に居を移されて副支部長を辞任したい御意向で、それで、臨時に役員改選が行なわれ、支部長に三国文治郎氏(昭十六年卒)、副支部長に大家寛氏(昭三十六年卒)が選出されました。

当日は朝からあいにくの雨でしたが、お元気な松田会長を囲んで、最近の電気工学の発達、各支部並びに懐かしい先生方の近況等をお伺いして楽しいひとときを過ごしました。

翌二七日(金)、松田先生・木嶋先生は、エネルギーに関する総合的な展示館としてはわが国最初にオーブン(五七年一一月)した「九州エネルギー館」(九州電力・福岡市中央区)を御訪問され、実物大の原子炉模型や実際に五〇〇Wの揚水・発電を行う小型設備など工夫をこらした展示物を御覧になりました。(加藤記)

同窓会記事 探訪の記

洛友会中部支部

「リトル・ワールド」

探訪の記

中部支部58年度春の行事は、石川先輩はじめ名鉄グループ各位のお世話で、本年3月にオーブン

(うち夫人10名)の参加を得て、たばかりの、民族博物館「リトル・ワールド」を探訪することとなり、6月日12本多支部長以下26名

(うち夫人10名)の参加を得て、

楽しい雰囲気のなかでおこなわれた。関西支店にて、

まず午前9時半、名鉄新名古屋



洛友会東京支部 ティス会

ティス会

当テニス会は洛友会々報一一七号でも紹介しましたが、其の後も例会を日産厚生園のテニスコートで続けて居り、去る四月三日(日曜日)に本年度第一回の例会を行いました。今回は十三名(うち夫人2名)が参加、朝九時から夕方四時半迄折柄の好天に恵まれ春の日射しを一杯に受けて一同気持良い春の一日を楽しみました。

駅コンコースに掲げられた「洛友会中部」とのビラのもとに全員集合。昔なじみあり初対面あり、ヒラ社員あり社長ありの状況とは

星食は館内の食堂に特に席を設けていただき、メキシコ・インドネシア・ミクロネシア等の民族料理のフルコースを満喫した。食事の間そこかしこで、先輩後輩のワクを超えた語らいがはずんだのは無論である。食事の後はいったん自由解散となり、三々伍々、広い園内に点在する世界各国の珍しい家屋等をたずねた。帰途は西可児駅に到着し、バスにてリトルワールドへ。

園内見学に先立つてまず別室にて大野先輩(昭25、名鉄百貨店副社長)から、リトル・ワールド設立までのいきさつ、苦労話などをうかがつたあと、研究員のかたから見学のポイント等について説明を受け、一同おおいに感銘を深くした。ついで記念撮影にうつたが、ここで誰が前に並ぶかを決めるのに時間を要し、結局洛友会がこの間に時間を要し、結局洛友会を約して散会した。天候にも恵まれ、世話役のゆきとどいた気概で楽しい一日であった。

(庶務幹事坂入記)

